

大学

天職を通じた神と人類への奉仕

神学部教授 三宅 みやけ 威仁 たけひと

京田辺校地に向くと必ず理化学館を訪れ、正面入口の張り出し屋根の壁面に彫られたJ・N・ハリス氏の motto (Seek Through Your Vocation to Serve God and Humanity——あなたの天職を通じて神と人類に奉仕しなさい) を眺めることにしている。

「天職」と訳されている“vocation”という単語には「神から与えられた使命」と「日常生活における職業」という二つの意味が込められている。つまり、この言葉には「世俗的な職業こそ神が各人に課した責務である」というプロテスタント・キリスト教に特有の思想が現れているのである。

この motto を見るたびに、私はマックス・ヴェーバー著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を思い出す。この中でヴェーバーは、禁欲的プロテスタントが、特にピューリタンをはじめとするカルヴァン派信徒が、自分たちの靈魂の救済だけを目指し、私利私欲を充足するた

めの営利活動を敵視していたにも拘らず（いや、正にそれ故に）、図らずも結果として近代的・合理的資本主義の発展に大きく寄与したという歴史のアイロニーを論じている。

カルヴァン派信徒は予定説を信じていた。誰が救われ、誰が滅びるかは天地創造の時点で予め決定されている。自分が救われるグループに所属しているのかどうか不安に感じた信徒は「救いの確証」を得たいと思う。彼らは自分たちの行動パターンを見れば、救いの側に属している確信を抱き得ると考えた。救いに予定されている人間は神の栄光を増し加える行為を間断なく行うはずである。即ち、神から命ぜられた使命である日常的職業における禁欲的労働こそが「救いの確証」なのだ。こうして厳格な倫理性を備えた基準で自分たちの生き方を絶えず吟味し、勤勉であると同時に、一切の奢侈を避ける禁欲的なタイプの人間が形成された。新島襄がニューイングランドで出会ったのはこうしたピューリタン精神を受け継ぐキリスト者だったのであり、日本の近代化のためにはこのような国民の育成が急務だと考え、教育事業に身を捧げる決意を固めたのである。

女子大学

私、aikoの「師匠」ぶに!

学芸学部メディア創造学科教授

影山 かげやま
貴彦 たかひこ

大学卒業後40歳手前まで、放送局のディレクター・プロデューサーとして、テレビ・ラジオの番組を作っていました。エンターテインメントジャンルの番組が専門でしたので、1000人近いタレントのみなさんと仕事をしてきました。今日は当時のお話をひとつ。

aikoの名前をご存じない方はいないでしょう。日本を代表するミュージシャンのひとりといっても大げさではありません。彼女と数年仕事を共にしてきました。まだaikoが今ほどビッグになる前の頃です。

ある日の番組本番前、軽い打ち合わせを終え、スタッフたちも交え雑談をしていました。当時流行っていたゲーム「ハイパーオリンピック」の話になった時、aikoが「私これ、絶対誰にも負けません!」と少し小鼻を膨らませて言ったのです。これは番組のネタになるかも?と瞬時に感じた私は、「ボクも負けへんで〜!」とaikoに向かって笑顔で悪戯っぽく言ってみました。案の定スタッフたちも乗

ってきて、2人の対決を見守ろうということになったのです。幸い放送局の前はゲームセンターでしたので、早速みんなで向かいました。こういう「ノリ」、エンターテインメントにはとても大事な要素だと思います。

オリンピックの陸上競技数種目をゲーム化して対決する「ハイパーオリンピック」、敗者は勝者のことを当面「師匠」と呼ぶという罰ゲーム?も決まりました。さほど自信があったわけではありませんでしたが、運も味方し私が僅差で勝ちました。aikoは、その日からしばらく、私のことを「師匠!」と笑顔と呼んでくれました。

それから数年が過ぎ、aikoはNHK紅白歌合戦出場も果たし超のつく人気を得ました。私がプロデューサーを務めていた番組からも「卒業」して、しばらく経っていました。凱旋キャンペーンで久しぶりにMBSの番組に出演することが決まり、私も仕事の合間に彼女の局入りを迎えました。

スタジオの前室に来て私の顔をみつけるや、aikoはフロア中に響きわたる声で「師匠〜!」と言ってくれたのです。たまらない嬉しさでした。当時を知るスタッフたちは爆笑でした。飛び切り「人たらし」のaiko。売れるべくして売れた人だと思っています。

香里中学校・高等学校

「同志社の良心教育」 — AI と共存する未来 —

校長 瀧 英次

氷上で猟をするイヌイットの人たちは、星や風、地形などの自然のサインをもとに自在に移動し生活をしていました。しかし、GPSの登場により、イヌイットの人たちは自分たちの感覚や経験に頼る必要がなくなりました。GPSが正確な情報を知らせてくれるので、生活は便利になりましたが、GPSの故障や電池の凍結という事態が生じると荒野で迷い、時には深刻な事故につながることもあるそうです。このように、現代のテクノロジーへの依存度が高まることで、本来、人間が持っていた能力を退化させているのではないのでしょうか。

昨今、スマートフォンやインターネットの普及により、情報を瞬時に入手することができるようになりました。この便利さに慣れてしまうと、自分で情報を探し出したり、問題を解決したりしなくなり、情報を与えられるだけで満足してしまうことがあります。また、AIの発展により、

自動運転車やスマートホームなどの新たな技術が登場することで、私たちの生活はより快適になった反面、自ら状況を見極め判断を下す機会が減ったように感じます。

私たちは科学技術の恩恵を享受して生活しているので、高度情報化やAIの急速な進歩により、私たちの生活は確かに豊かになり、便利になりました。ただ、人間によって生成されたAIに人間が翻弄されたり、人間が生成したAIを悪用したりすることは本末転倒です。私たちはAIを適切に利用するために人間の判断力や倫理的な視点を養い、AIを補完する形で活用していかなければ、人間らしさや本来の能力を保持することができません。科学技術と人間が協力し合い、お互いの強みを最大限に引き出すことで、より持続可能で意義のある未来を築くことができるのではないのでしょうか。自らの「良心」に従って、AIを正しく運用し、世のため、人のために使う手腕が、今問われています。

同志社は、2025年に創立150周年を迎えます。今こそ、校祖新島が掲げた「良心教育」に邁進し、AIと共存する未来において、ただ技術や才能のある人物を育成するだけでなく、得た知識、良心を手腕に運用する人物の育成に努めたいと、あらためて感じる次第です。